

## 〈おびひろイルミネーションプロジェクト〉 帯広平原通商店街振興組合と藤丸の連携イベント

### ■帯広平原通商店街振興組合について

昭和2年に帯広駅前の西2条8丁目から11丁目までの商業者で組織された「駅前通り商店街」が前身で、昭和42年に現在の「帯広平原通商店街振興組合」を設立。

当商店街は街区が縦長なため、丁目ごとに特色がある多種多様な店舗で構成されており、会員数は60となっている。

当商店街では、昭和48年に道内初となるロードヒーティングを設置したほか、平成26年には防犯カメラの設置と歩道街路灯の再整備（LED化）、平成29年には平原通公衆フリーWi-Fiの運用など幅広いユニークな活動を行っている。

なかでも平原通りのシンボルとなっている4頭の鹿のモニュメントを題材とした「平原の鹿物語」という絵本作製は、商店街の取組としては全国初となっている。

### ■藤丸について

明治33年に創業した北越呉服が始まりで、昭和5年に十勝初のエレベーターを備えた鉄筋コンクリート4階建ての店舗で百貨店を開業。昭和57年には現在の店舗である「ふじまるビル」を完成させた。

道東で唯一の百貨店であり、客層は高齢者が中心となっているが、外国人の来店も年々増加しており、来客数は年間100万人を超えていく。

1階にはインバウンドに対応するため、商店街の店舗も対象とした免税カウンターを設置している。

平成20年には釧路市周辺の顧客を取り込むため、当時全国的にも珍しかった釧路市から店舗まで送迎する「買い物ツアーバス」の運行を

開始。以後、北見市や網走市、中標津町にも拡大し、周辺地域からの集客に成功している。

商圏は十勝管内から道東方面に及んでおり、地域の方々からは「藤丸さん」の愛称で呼ばれ親しまれている。



〔イベントの様子1〕

### ■おびひろイルミネーションプロジェクトについて

従来は様々な灯りの取組が実施主体ごとに別々に行われていたが、これを一体的に行うことで相乗的な効果が期待できると考え、平成14年に帯広市が主体の実行委員会形式により実施したのが始まりで、現在は実行委員長である「藤丸」や「帯広平原通商店街振興組合」、「十勝電気工事業協同組合」などが主体となり企画・運営を行っている。

中心市街地をイルミネーションで彩る本プロジェクトは、毎年12月から翌年2月中旬まで実施しており、長く厳しい冬のまちに彩りと華やかさを演出し、訪れる人を温かく迎え入れる風物イベントとして定番となっている。

プロジェクトの初日には、帯広駅北交通広場のシンボルツリー「はるにれの木(平和の木)」と7本の街路樹に飾った約3万8千個のLED電球の点灯式を実施した後、150名規模の子

ども達がサンタの衣装を身に付けた「ちびっ子サンタパレード」が、駅前から藤丸まで行進し、最後に藤丸前広場にて中心部のイルミネーション合同点灯式を行っている。

また、JR帯広駅前にて、十勝電気工事業協同組合青年部協力による「こども縁日」や「高所作業車乗車体験」、「お菓子まき」をはじめ、地元高校吹奏楽部による演奏（ダンプレ）なども行われている。

なお、平成30年には十勝が舞台となったドラマの出演俳優を点灯式に招き、女性を中心に2,500人を超える市民でにぎわった。



[イベントの様子2]

### ■連携の効果について

厳しい帯広の冬を楽しめるイベントとして、市民が中心部に足を運ぶきっかけ作りやにぎわい創出、回遊性の促進、地域の魅力発信などの効果をもたらしている。

また、「ちびっ子サンタパレード」に参加する子ども達を見ようと駆け付ける父母や祖父母も多く、パレード終了後には商店街や藤丸に買い物などで立ち寄る姿もみられる。

平成29年から、インスタ映えするオブジェを設置したこともあり、若者や観光客の来場も増えている。

#### 取材先

■帯広平原通商店街振興組合（帯広市西2条南9丁目1番地）

TEL 0155-23-3772

■藤丸（帯広市西2条南8丁目1番地）

TEL 0155-24-2101

昼間は人通りが少なく、夜間の醉客でにぎわう商店街であったが、イベントにより商店街の店舗を周知したことで、少しずつではあるが昼間の人通りも増え、商店街に足を運んでもらえるようになっている。

なお、商店街の店主や藤丸の従業員、ボランティアがイベントの警備を、十勝電気工事業協同組合がイルミネーションの取り付けを行うなど、イベントへの参加団体も年々増えており、地域が一体となって取り組むイベントに成長している。

### ■今後について

中心市街地のにぎわい創出は単独で行うのではなく、地域を巻き込んで行っていくことが必要である。

今後も地域の方に楽しんでもらい、中心市街地のにぎわい創出を図るため、イベント以外でも相互に連携して事業に取り組んでいく考えである。



[イベントの様子3]